

日本の生涯教育における ウェルビーイング概念の 適用について

京都大学こころの未来研究センター

内田 由紀子



京都大学 KOKORO RESEARCH CENTER • KYOTO UNIVERSITY

こころの未来研究センター

**KOKORO
RESEARCH
CENTER**
KYOTO UNIVERSITY

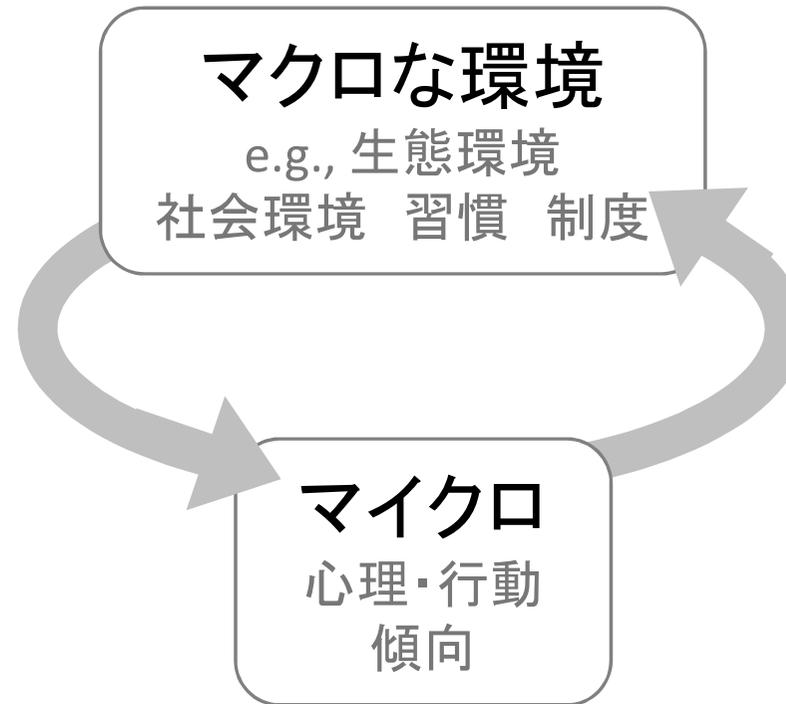


自己紹介

- 京都大学こころの未来研究センター教授・副センター長
- 専門：文化心理学・社会心理学
- テーマ：対人関係と幸福感、認知と感情における比較文化研究
- 国際比較（主に北米、欧州）
- 国内での企業との共同地域比較



バックグラウンド：文化心理学



人間の心理・行動傾向と、人が集合的に作り出す「文化」の循環メカニズムの解明

→個と場の幸福の相互作用

なぜwell-beingに注目しているのか？

- 自分の生きる道だけではなく、家族や友人、自分の住む街・国が、どのようにすれば「良い状態」でいられるのかについて考えること
- 未来にむかって大きな意思決定するときは何を指針にするか？
 - 広い意味での「幸せ」を追いかける
 - 「客観性」が助けになってくれることがある

論点①

- ウェルビーイングを目指す教育は、「個人」をターゲットにするだけではなく、「場」をターゲットにしていくことが持続性のためにも極めて重要である
- 個人の成長を支えるのは場の仕組み

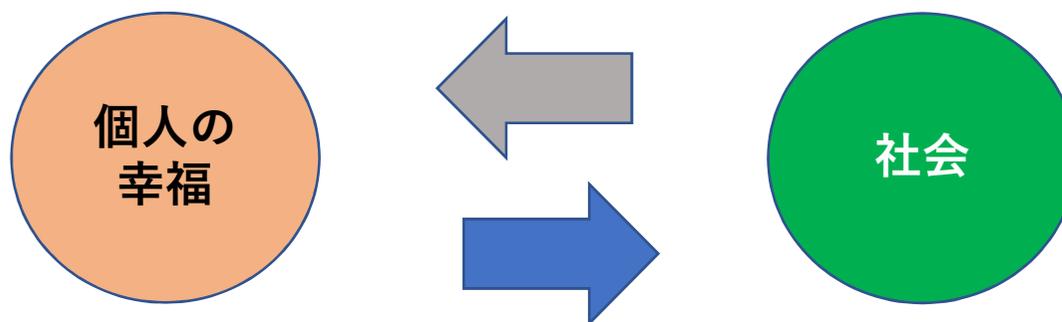
個人の幸福と場の幸福は切り離せない

- 幸福や生きがいは個人が感じるもの
- しかしながら生きている文化や環境などのマクロの要因とは切り離せず、時代や文化の精神、価値観を反映している
- 個人のこころのあり方もまた、社会や集団の価値観や空気のようなものを作り出していく
- 幸福な社会、集団、組織、地域はどのようなものかを考える必要

特に日本における幸福においては 「場」や「関係性」が重要

日本	北米
「おだかやかさ」	「うきうき」 (Tsai et al., 2006)
良いことと悪いことのバランスの重視（負の内包、陰と陽）	良いことがさらなる幸福を招く、上昇的幸福(Ji et al., 2001)
関係志向	自己価値・自尊心 (Uchida et al., 2008; Uchida & Kitayama, 2009)
人並み志向・比較志向 (Hitokoto & Uchida, 2014)	自由選択

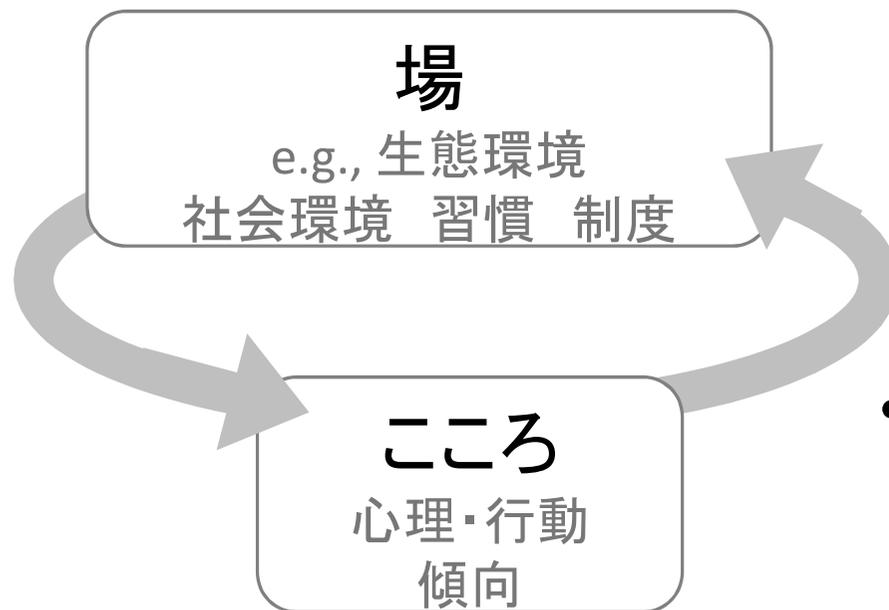
「個人が幸福になるには？」という問い
「幸福な社会はどう実現されるか？」という問い



互いが互いを規定しつつも、コンフリクトも生じる
(例：自由と規制、個人達成と格差、自己権利の保護と社会的寛容)

良いバランスを持続させる要因：社会的つながり・社会参加

個人を支える場づくりと場を支える個人



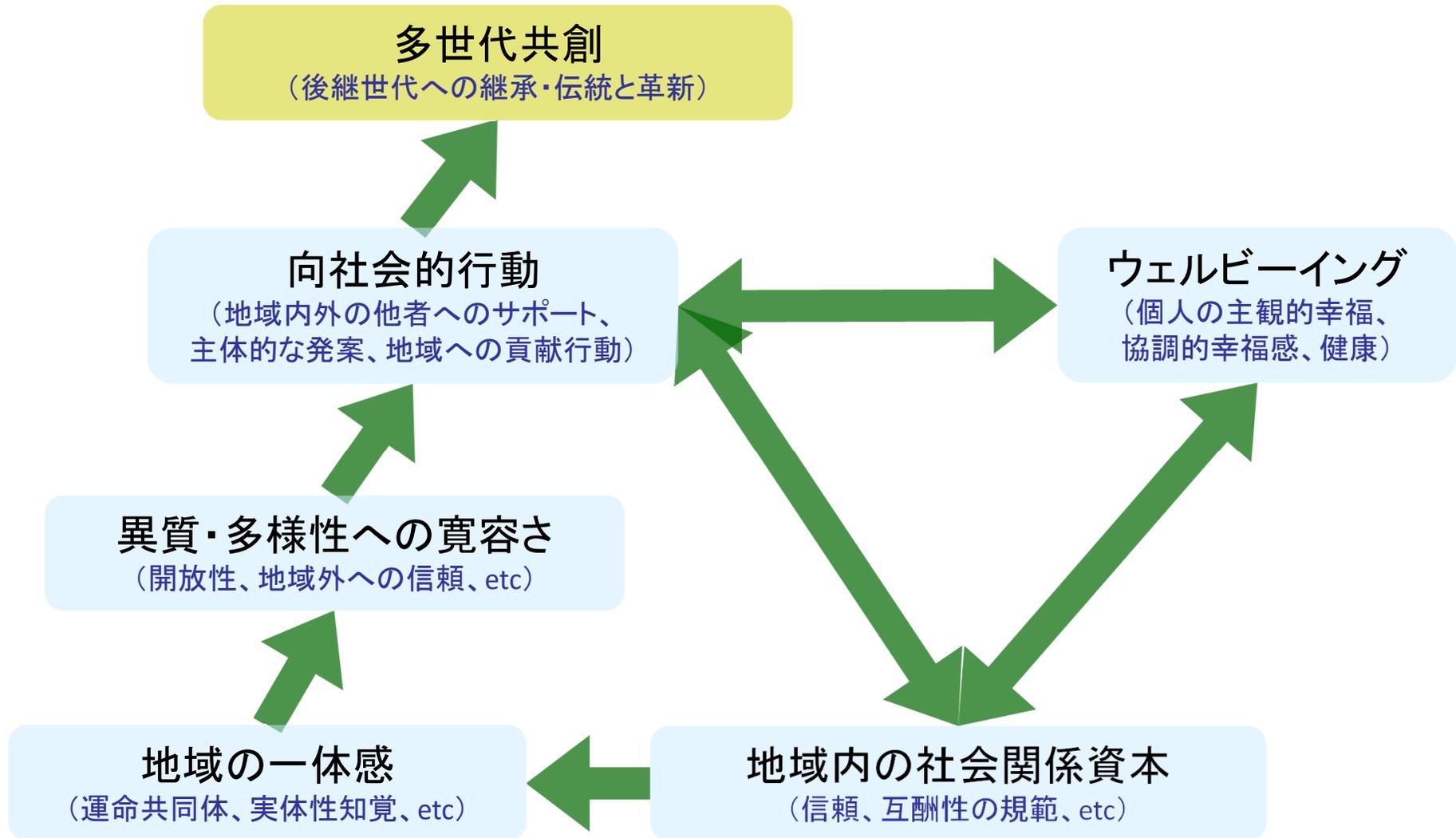
- 環境要因（地域の文化・風土・歴史、生態学的環境、生業）
- 個人・社会的要因（対人関係のもちかたなど）
- これらの相互作用

- 個人の幸福を超えた「集合性」に着目

論点②

- 生涯学習の基盤が目指すのは、個人の成長のみならず、地域社会の発展やウェルビーイングに資するような地域社会づくりである
- →生涯学習が社会・集団・組織・地域のWell-beingに果たすべき役割は大きいという共有理解の必要
- 「自分は教育に関連しない」と思っている多くの人にも理解をしてもらう

よりよい場の状態と個人のウェルビーイングが循環する

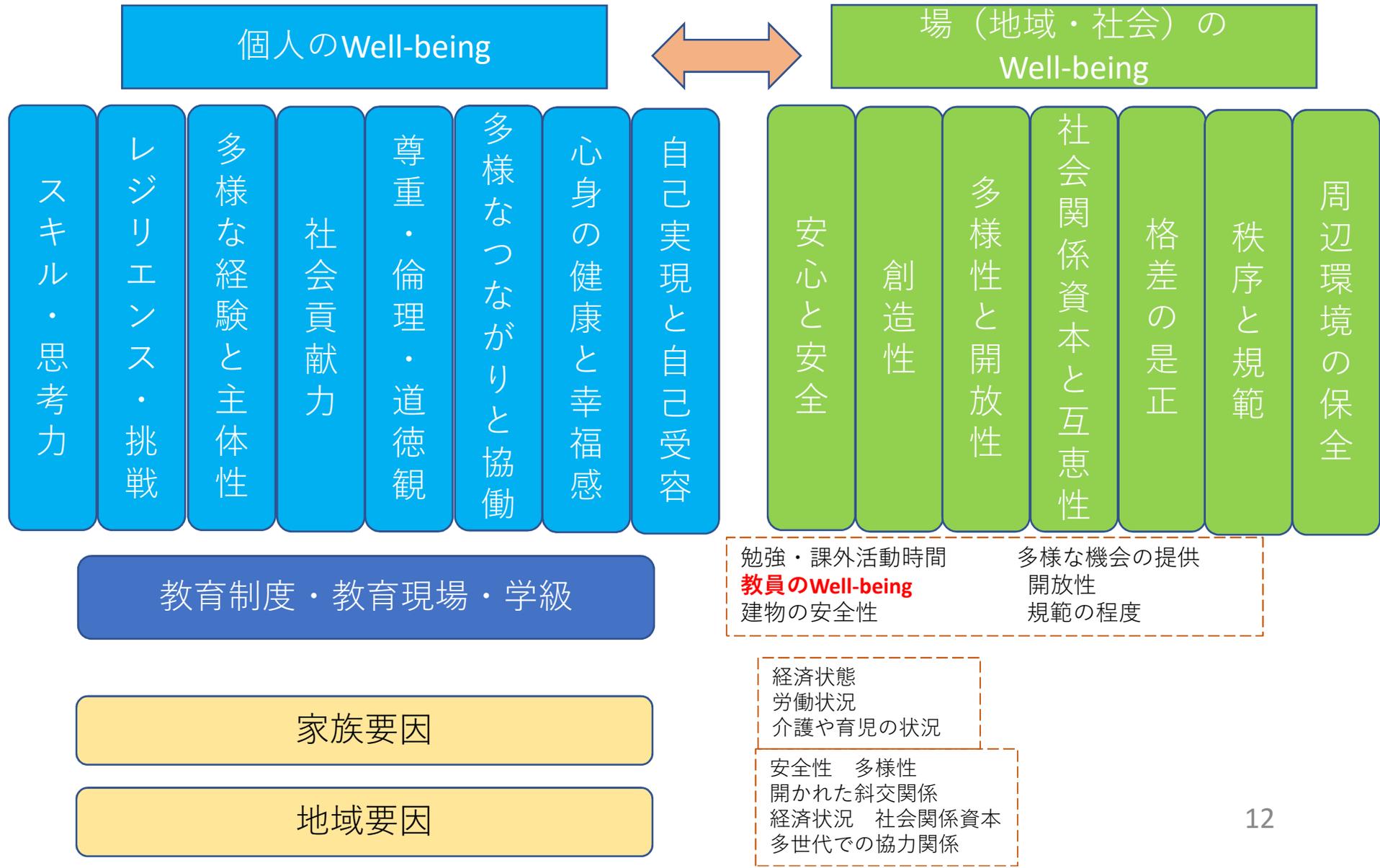


JST RISTEX 持続可能な多世代共創社会のデザイン

「地域の幸福の多面的側面の測定と持続可能な多世代共創社会に向けての実践的フィードバック」 (代表：内田由紀子) 報告書より 一部改変

日本型の教育とWell-beingのコンセプトならびに指標化

教育を通して得られるWell-being



ウェルビーイングの目標

- 幸福や生きがいを支える要件と、幸福や生きがいを感じる「力」
- 自分の身近な誰か、あるいは知らない誰かにさえも、自分の行動や思いが巡り巡って影響を及ぼすのが「社会」
 - 個人の幸福や生きがいは実は社会や文化とつながる集合的な現象でもある
 - 生涯学習は、特に「コミュニティ」を軸に、多様な人々を巻き込む必要→「個人の成長と教育機会の提供」だけでなく、幅広いコミュニティ醸成目標を

個人のウェルビーイングの向上は
場のウェルビーイングの醸成でもあり
場のウェルビーイングが多様な個人を支える